

会 議 録

☐ 全部記録 ☒ 要点記録

1	会 議 名	令和元年度 第 1 回ひめじ創生戦略会議
2	開催日時	令和元年 5 月 30 日（木） 15 時 00 分～16 時 35 分
3	開催場所	防災センター 5 階 災害対策本部会議室
4	出席者又は欠席者名	ひめじ創生戦略会議委員 13 人、市長、事務局
5	傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可（5 人） 傍聴人（4 人）
6	議題又は案件及び結論等	1 開 会 2 議 事 (1) ひめじ創生戦略の数値目標について (2) 地方創生交付金対象事業等の実施結果について (3) 今後のひめじ創生戦略の方針について 3 その他 4 閉 会
7	会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

	1 開会（15:00）
市長	挨拶
事務局	※令和元年度第1回ひめじ創生戦略会議の概要説明
	2 議事（15:05）
事務局	【説明】
会長	資料1、2、3について、ご質問、ご意見があれば発言をお願いしたい。 資料2の外部有識者からの評価について、事務局案のとおりでよいのか、 または問題点があれば発言をお願いしたい。2の姫路・石巻縁推進事業の 指標③の漁業者数は少しKPIとしては困難なものだったと考えるが、漁獲高 では数値は上がっているのか。
事務局	漁獲高の数値は本日手元に無いが、坊勢漁協などが石巻縁推進事業の中 で新しい商談を20件以上実施したと聞いている。
会長	漁獲高の数値が上がっていれば、漁業者数の数値が達成できていなくて も補足説明ができるのではないかと考える。 通過型で宿泊者数が思ったより伸びていないということだが、これは平 成29年度の数値であるのか。近年は姫路駅周辺にホテルなどが立地され ているがその影響はないのか。
事務局	確実に部屋数は増加しているので、宿泊者数にも好影響を与えていると 考えている。
委員	資料3について、東京圏・大阪府への転出超過数を減らすために様々な 取り組みをしたということだが、現在、姫路市が播磨の中核都市として進 めている代表的な取り組みは何なのか。

事務局	市民のみなさん一人一人が地域コミュニティや人口を維持するために、地元の公共交通機関を利用することや地元の物を購入する、また、子育てのために若い世代を応援するなど、身近な問題として考えてもらうことが重要である。若者に対しては、姫路市独自の取り組みをしていくことが必要であるが、まずは身近な取り組みを実施しているのが現状である。
委員	姫路市には姫路市ならではの特色やアピールポイントを意識して様々な施策のベクトルをあわせて、取り組んでいただきたい。
事務局	現在、総合計画の改定に取り組んでいるので、特色を出していく取り組みを進めていきたい。
会長	出生数が減るのは、合計特殊出生率はほとんど変わらないが、女性が姫路市を出て行っていることが原因である。女性をターゲットにして、魅力的な働く場を創出していくことが必要である。
市長	女性をターゲットに姫路の良さをアピールしていきたいと考えている。公共施設では、パウダリングルームなどももっと作るべきである。
委員	京都の男女共同参画センターの視察を行った際に、お母さん方が習い事をする際、3日前までに申請をすれば、保育士が子供の面倒を見てくれるという施設を見学した。子育て世代には助かる取り組みだと思う。
市長	育児でストレスを抱える親も少なくないが、コンサートなどでは、未就学児をお断りするイベントが多く、託児サービスがあればそこでリフレッシュをすることもできるのではないかな。
委員	託児サービスについては、人材派遣できればお母さん方の助けになるのではないかな。
委員	地域コミュニティでは、多くの方が集まりお互いの安否を確認し合う共

	通の場所の存在が大きい。昔は公民館などであったが、人口が減少するとその機能が失われる。ショッピングセンターなどにそのような場所ができればよいと思う。高齢者が元気に過ごしていれば、若い人も地元に戻ってくるのではないかと考える。
事務局	今後も「生涯を通じて生き生きと活躍できる社会を創生」することを意識しつつひめじ創生を進めていきたい。
委員	東京は23年間ずっと転入が増加し、県内では尼崎市と明石市が転入増となっている。様々な統計上では、姫路市は住みやすいはずなのに人口がずっと減り続けている。市民にとって本当に住みやすいまちなのか、人口が減少する原因を調べる必要があるのではないかと。国には東京への転入を抑制することも考えてもらいたい。
事務局	姫路市は災害が比較的少なく、産業、交通も発展しており、歴史文化など、地域資源もバランスよく揃っている。その中でも独自の取り組みを検討し、進めていきたい。
委員	ひめじ創生戦略と姫路市総合計画の統合について、創生戦略の大きな改定は姫路市総合計画の策定期間に行うということだが、KPIが達成できたもの、達成できなかったもの、今後の進捗が見込めないものなど、いろいろあったと思う。統合までの延長の1年でKPIも見直しを検討してはどうかと思う。
事務局	国のほうでも交付金等について、一度設定したKPIを事業の進捗に応じて変更することも視野に入れた有識者会議を行っている。
委員	地元は住みやすく愛着もある。ただ、若い人はそれをも通り越して、都会の生活に憧れるものである。住みよいことを発信することも必要だが、若い人が何に魅力を感じて都会に行くのかを調べる必要があるのではないかと。

委員	若い人が一度都会に出ていくことは必然であるが、就職して３年以内に３割以上が辞めてしまう事実もある。東京に出て行った人に姫路市の魅力を発信しつづけていくことはできないか。仕事を辞める選択をする際に、姫路市にUターンするきっかけになるのではないか。
委員	県の地域創生においても、カムバックひょうごセンター、出会いサポートセンターをおいているので、姫路市にもうまく活用していただければと思う。
事務局	県のカムバックセンターなどでも姫路市のPRをしていただいているが、一度東京に出てしまった人にどのように姫路市の魅力を発信するかは課題となっている。最近、保護者から子どもたちに姫路市の魅力を発信してもらうことを目的に、保護者向けの就職説明会を実施している。 また、高校を訪問し、地元を離れるまでに姫路市の魅力を伝える取り組み「ひめじ創生高校生キャラバン」を実施している。
委員	東京にある私立大学では、定員をオーバーする入学に対し、文部科学省が罰則を設けている。これは東京一極集中を是正したいということが念頭にあるものであるが、現実には東京に行くとなかなかそこから出ないということも多い。東京から地方への人の流れを作っていくことが必要である。 また、高齢者は住み慣れた場所を離れたくない気持ちがある。魅力的なまちづくりには、医療介護などの福祉の充実に努めていただきたい。
委員	娯楽のための託児サービスの利用はまだまだ心理的な抵抗があると思うが、浸透していけば、子育てしやすいまちを実現できるのではないかと思う。
委員	パンフレットに姫路市の美味しいものや祭りの大まかな日程が分かるカレンダーを掲載するなど、若い人を惹きつける姫路市の魅力を効果的に伝えていくべきである。 保育園は延長保育というしっかりしたシステムがあるが、小学校１年生、２年生の場合、迎えに行かなければならない時間帯が正規社員では難しく、

委員	パート形態に変更するケースがあると聞いている。女性が働きやすいまちづくりをしたいという発想とは真逆である。放課後児童クラブの利用時間も長くしていただくなど、利用しやすいようにしていただきたい。 前回の会議で、事務局から女性の就労支援について、女性と企業のマッチングを行っていくとの話があった。デスクワークを希望する女性が多いので、是非効果的な取り組みをお願いしたい。他の地域での特色ある取り組みとして、福岡市のNPO法人が「ママドラフト会議」という事業をいくつかの地域で実施している。企業と再就職したい主婦が一堂に会し、30社程の企業を前に主婦がPRし、雇用につなげていくというものであり、マスコミに取り上げられている。 また、姫路市内の創業・事業承継の状況について、創業企業数の伸びは全国平均より大きく、女性の起業も活発である。小規模企業の事業承継に関しても増えてきている。支援を必要とする企業はまだあるので、関係機関等と連携してサポートしていきたい。
会長	本日の会議では、姫路市をどう活性化していくかについて、女性の視点、若者の視点など、様々な視点から意見をいただいた。よろしく願いしたい。 3 その他 ※連絡事項 4 閉会（16:35）